

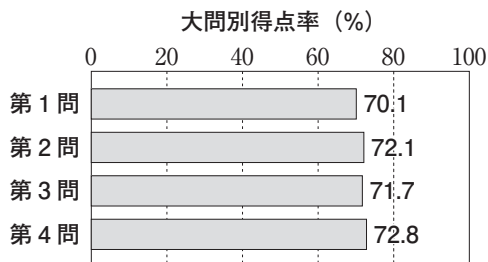
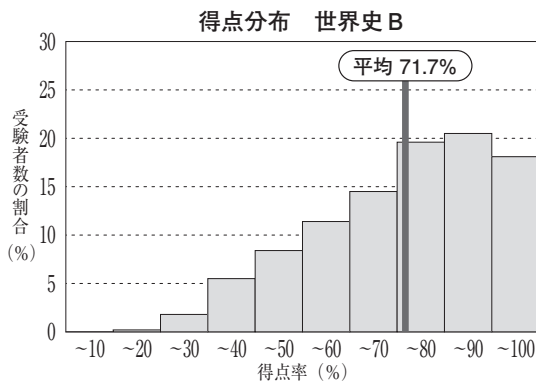
世界史B

基礎知識は定着してきた。最後まで弱点の詰めを。

I. 全体講評

今回の平均点は71.7点で、10月の57.7点から14点という大幅な伸びとなった。解答に迷う余地の少ない平易な設問が多かったとはいえ、難易度はセンター本試験と同レベルであり、秋以降の学習の成果が確実に表れたといえる。本来、センター試験は基本事項に関する出題が大半で、難問はほとんどない。学習進度が一通り完成すれば、得点が相当程度伸びるのは当然である。

ただし、出題形式によっては正答率の伸びが鈍い設問もある。ちなみに今回の小問のワースト5のうち3問は、年表補充(第1問問7)・グラフ併用(第3問問2)・年代整序6択(第3問問6)という形式のものである。これらに加え、時期指定正文(誤文)選択や地図併用問題等も得点しにくい部類に入るので、本番までの残された期間の最後まで、精度の詰めに全力を集中しよう。



II. 大問別分析

第1問 国家と経済の関わり

ヨーロッパ史の精度を高めよう。

第1問の得点率は70.1%。中国史関連は好調で、世界史上の反乱についての正文選択(問1)は69.9%、正答④の李自成の乱は明末の最重要事項の一つ。北魏についての正文選択(問2)は76.3%、孝文帝の漢化政策も迷う余地はない。唐の時代の周辺国についてのa・b2文正誤組合せ(問6)も68.9%であるが、aの吐蕃についての判定は容易。世界史上の税制度についての正文選択(問9)は80.7%で、第1問で2番目の高さであるが、地丁銀制は基本事項。またアメリカ史とも重なるが、ニクソンの訪中を正答とする正文選択(問8)は81.4%と、第1問の最高値で、戦後史まで学習が進んでいることがうかがえる。

一方、ヨーロッパ史は中国史の正答率を下回った。とくにジュネーヴ4巨頭会談の開催時期についての年表補充問題(問7)は54.9%と伸び悩み、第1問の最低値となった。19世紀の出来事についての時期指定正文選択(問4)も67.1%だが、正答②(ロシアでの奴隷解放令)のみでも判定できる。スイスについての誤文選択(問5)は65.3%と第1問で2番目に低い数値で、やや盲点を突かれた形。社会主義についての誤文選択(問3)は70.2%。

第2問 自然と人間について

中国史で健闘。近世以降のヨーロッパ史の詰めを。

第2問の得点率は72.1%。本問でも中国史は健闘した。隋についての正文選択(問7)は79.1%、モンゴルの中国支配についての独立文中空欄2箇所補充(問8)も84.2%まで伸ばした。古代オリエント史もシュメール人についての正文選択(問2)が89.6%と、第2問で2番目に高い。キリスト教についての年代整序6択(問3)も80.4%と高いが、3つの事項間の年代差が大きく、この種の形式の設問としては平易。

一方、近世以降のヨーロッパを中心とする設問は

問4を除いて正答率の伸びが鈍かった。ルイ14世についての正文選択(問6)は61.8%、正答②のナントの王令(勅令)の廃止は基本事項。リード文中空欄2箇所補充(問1)は65.4%で、ロベスピエールについては86%の受験者が正しく判定できており(選択肢①と②の合計値)、国民公会と総裁政府との判定が鍵となった。a・b2文正誤組合せ(問5)は40.3%と、今回の全小問中の最低値。aの二月革命とベルギーの独立の関係の判定が鍵。エジプトの植民地化とスエズ運河についての誤文選択(問9)も61.6%と伸び悩んだ。誤文である①のスエズ運河会社株買収関連は定番の問題。

リード文中空欄2箇所補充(問4)は判定しやすく、正答率90.1%は第2問の最高値であった。

第3問 世界史上の余暇と娯楽

グラフ・年代整序問題等を完成させよう。

第3問の得点率は71.7%。ヨーロッパの地域別人口のグラフを使用したa・b2文正誤組合せ(問2)は59.9%。aの百年戦争終結年代と、bのカペー朝の成立年代がともにわからないと正解できず、レベルはやや難。オスマン帝国についての年代整序6択(問6)も59.9%。3つの事項間の年代差は同形式の第2問問3よりも狭く、その分、難度が上がった。ロックとアメリカ独立宣言の組合せを正答とする独立文中空欄2箇所補充(問9)は59.5%。独立宣言へのロックの思想の影響は基本事項だが、第3問の最低値となった。これらに次いで低かったのが、イスラーム世界と東アジアの交流についてのa・b2文正誤組合せ(問4)の62.9%。bの授時暦の判定が鍵となった。

ヨーロッパ史については、小問間で正答率にばらつきが出た。神聖ローマ帝国についての正文選択(問1)は68.6%。正答②の皇帝フリードリヒ1世はやや細かい。a・b2文正誤組合せ(問7)は67.6%で、戦後史としてはまずまずの出来。一方、カトリック教会についての波線部正文選択(問3)は88.8%と、第3問で2番目の好成績ながら、正答①のピピンだけでも判定できる。世界の宗教についての正文選択(問8)は93.5%で、第3問の最高値。その他の宗教関係では、イスラームの教えについての誤文選択(問5)も87.7%と高いが、判定は容易。

第4問 東アジアの中の日本

中国現代史を補強し、完成を目指そう。

第4問の得点率は72.8%。1970年代以降の中国についての誤文選択(問8)は50.5%で、第4問の最低値となった。誤文である④のマカオがポルトガルの拠点であったことは大航海時代の学習で扱うはずで、それがわかっていたら正解できる設問である。鄭氏(台湾)についての地図併用問題(問1)は87.8%と、第4問で2番目に高い数値。太平天国関連の年表補充問題(問5)は66.0%。各年号間の年代幅が比較的広く判定しやすい。日清戦争についての正文選択(問6)も70.4%と好調。

欧米史も健闘した。トラファルガーの語とその位置の組合せを問う地図併用問題(問4)は67.6%。アメリカ合衆国の戦後史についてのa・b2文正誤組合せ(問9)は77.1%。aの北米自由貿易協定(NAFTA)をアメリカ合衆国が締結したことは、「北米」の語からしても判定は容易。日本関連では、南蛮人についての誤文選択(問2)が82.9%と高いが、誤文である③のマテオ=リッチの判定は平易。一方、豊臣秀吉による朝鮮侵攻についてのa・b2文正誤組合せ(問3)は61.6%と、第4問で2番目に低い数値となった。bの李成桂を李舜臣と混同したと思われる受験者が約3分の1(①と③の合計値=34.7%)に上ったことが影響した。第二次世界大戦についての正文選択(問7)は93.6%で、今回の全小問の最高値。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆知識の精度を上げ、学力を完成させよう。

時期指定正文(誤文)選択や年代整序6択、年表問題などへの対応力を完成させ、地図や図版などを参照しつつ地理的・視覚的把握に留意して、学習の最後の詰めとしよう。今回の模試での大幅な平均点の伸びから見て、本番で大きな成果が期待できることは間違いない。健闘を祈る。